

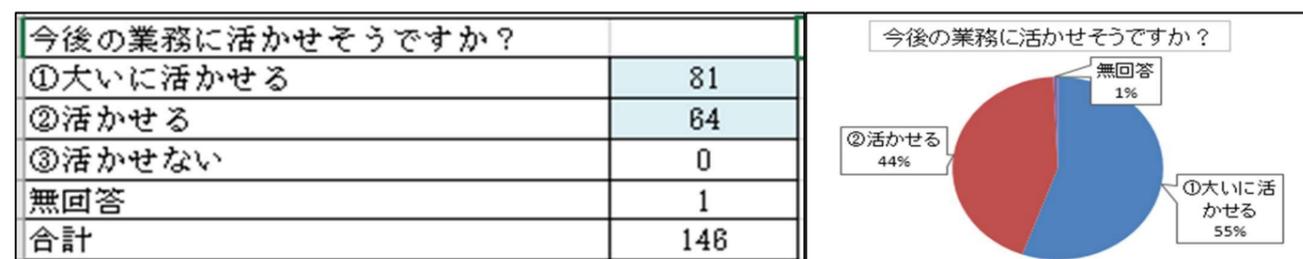
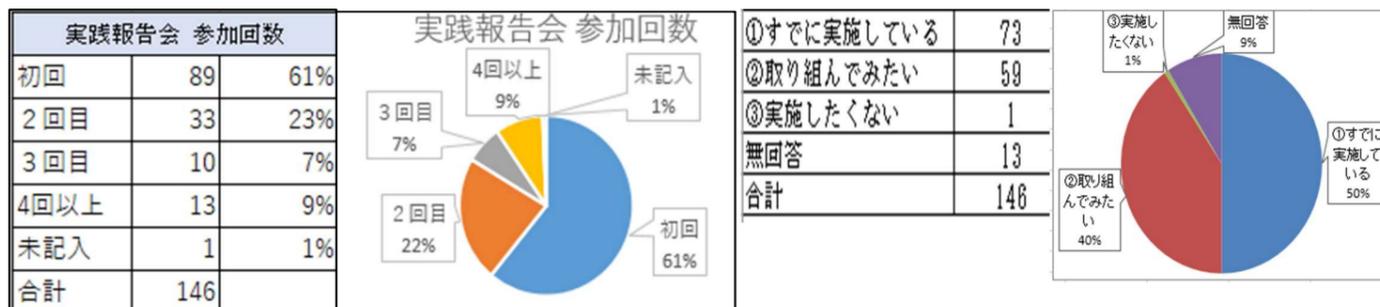
THE 市町支援通信

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～



実践報告会参加者アンケート報告

今年度は県内外から200名を超える方に参加していただき、146名の方からアンケートに回答していただきました。以下にアンケート結果を報告します。



参加者の感想

- ・人前で話すことが苦手、よくしゃべる子に対してお喋りタイムを設けるとクラス全体が良い方向になることがわかった。CLMは個人を支援するだけでなく、全体にもプラスになると理解した。
- ・「何かできることを増やす」前に、まずは安心して過ごせるよう信頼関係を築く、愛を育むというのがとても心に残った。
- ・手先が不器用な子ども友達と楽しみながらはさみ、箸、鉛筆などの使い方を身につけられたこと。低年齢児クラスでも実践してみたい。
- ・一人で抱えるのではなく職員間で話し合い、手立てを考えていくことが子どもたちにも保護者にとってもいい方向へとつながっていくのだと改めて感じた。

今年の副賞はコレ！



今年度は3種類の「マジックスクリーン」です。黄色い〇を引っ張るとかわいい絵が出てくる不思議なスクリーンです。絵本を読む前や先生がお話しする前に使うと、不思議なスクリーンに子どもたちの視線は釘付け(◕ ◡ ◕)



令和3年12月16日
 <発行> 三重県立子ども心身発達医療センター 発達総合支援部 地域支援課
 〒514-0125 三重県津市大里窪田町 340 番 5
 電話番号 059-253-2000(代) FAX 059-253-2029
 MAIL: hattatsuc@pref.mie.lg.jp URL: https://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/

子ども心身発達医療センターは、途切れのない支援システムの構築を推進しています。

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援をめざし、子ども心身発達医療センターは多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ①発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）・機能の設置
- ②「CLM（チェック・リスト・in 三重）と個別の指導計画」による保育所・幼稚園での早期発見・支援
- * 「CLMと個別の指導計画」は、子どもの育ちを見極め、適切な支援を行うためのツールです。
- ③みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援
- ④「CLMと個別の指導計画」専任コース研修（CLM コーチ）の育成支援

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 特集

令和3年11月23日、200人を超える方々のご参加を得て、フレンテみえにて「令和3年度『CLMと個別の指導計画』実践報告会」を行いました。

三重県 子ども福祉部 中山恵理子部長の挨拶です。（要旨）

本日は、県内外から多くの皆様に令和3年度「CLMと個別の指導計画」実践報告会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、コロナ禍において子どもたちを取り巻く環境が大きく変わるなか、日頃から保育現場や医療現場において、子どもたちや子育て家庭のためにご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、平成29年6月に子ども心身発達医療センターを開設してから、子どものこころとからだの発達支援の拠点として、市町の途切れのない支援システム構築のための人材育成や体制強化を行ってきました。昨年度からは、三重大学の医学部や三重県小児科医会の協力を得て、地域で開業されている小児科の先生方を対象に講座を実施しています。

今後、市町で活躍するアドバイザーやCLMコーチ、地域の小児科、子ども心身発達医療センターなどのネットワークにより、子どもとその家族を支援するための取組を進めていきます。

発達障がい児の早期支援のためには、早期に発達障がいを発見し、的確な支援を行うことが重要です。三重県では、発達に課題のある「気になる子」が、保育所や幼稚園等で困難さを感じることなく過ごすことができるように、この「CLMと個別の指導計画」を作成しました。

県内の保育所・幼稚園・認定こども園での導入率は、R2年度末時点で59.4%となっています。引き続き、途切れのない発達支援体制の構築に向けて、市町や関係機関と連携しながら「CLMと個別の指導計画」の保育所・幼稚園・認定こども園への導入を促進し、子どもの健やかな育ちのための支援に取り組んでいきます。

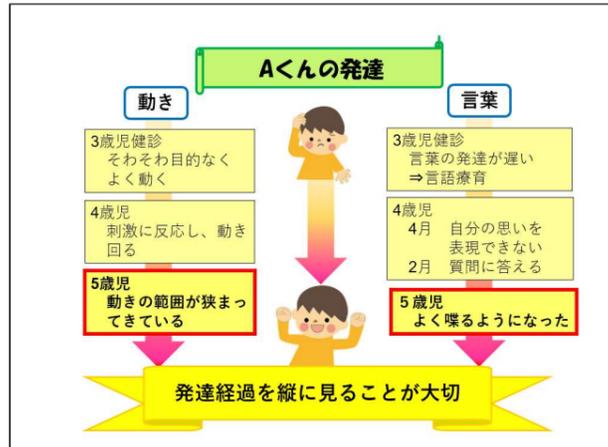
本日の実践報告会が、それぞれの現場で実践に生かしていただけるものとなるよう期待しています。最後に、すべての子どもたちのために日々尽力されている皆さまのますますのご活躍を祈念し、私の挨拶といたします。



（中山恵理子部長）

「CLMと個別の指導計画」 実践報告会 事例報告

多気町 個性を認め合い育ちあう保育の実践



●動きや言葉の発達が気になる5歳児Aくん。担任は、「CLMと個別の指導計画」の実践を通して、Aくんの発達を5歳児クラスのみならず、Aくん同様の成長を縦軸で見ることができるようになりました。Aくんの個性を認め、予防的な支援（合理的配慮）を行い、クラスの子どもたちと共に成長できるよう支援しました。

名張市 あそびを通した安心できる関係性の構築



●家では喋るが園では固まってしまう4歳児Aくん。担任と別室でAくんの好きなあそびを1対1で行い、安心できる関係を構築しました。園全体のバックアップにより、2人だけの時間や空間が保障され、担任も安心してAくんに向き合うことができました。担任との関係性が基盤となり、Aくんは自然体の自分をクラスの中で出せるようになりました。4歳児担任から5歳児担任へ、関係性を移行するため、Aくんの目の前でバトンタッチ式を行い、うまく引き継ぐことができました。

岐阜県高山市 苦手なことにも楽しくチャレンジ



●ハサミ、箸、鉛筆がうまく使えない5歳児Aくん。クラスみんなで、「〇〇ミッション」と名付け、スモールステップで、楽しく取り組みました。ハサミミッションで切った物は壁面制作（花火）に、お箸ミッションの最後には本物の味噌汁を食べるなど、子どもたちのやる気スイッチを入れ、達成感が持てるよう工夫しました。また、クラスだよりで紹介し、保護者の方とも子どもの成長を喜び合いました。

「CLMと個別の指導計画」 お友だちといっしょに、じゃんけん遊びをしよう！



担任の願い

担任の指示を聞いて、みんなと一緒に行動できるようになってほしいな…



名前： Aくん	チェック項目 (11) 集団活動に最後まで参加できないエピソード いす取りゲームの時、あそびに入らなかったり、負けそうになると部屋の隅で見ている。	要因 ①負けておわるのが嫌 ②友だちと関わる経験が少ない
目標	カラフルじゃんけんの時、担任と一緒に最後まで参加することができる	
期間	具体的な指導方法	結果・評価
0/0 (0) ~ 0/0 (0) 8回	<p><クラス環境の整えとクラス全体の支援></p> <p><カラフルじゃんけんの時></p> <ul style="list-style-type: none"> 遊び方表、言い方表を見せて、カラフルじゃんけんの説明をする。 友達に自分から声をかけて、やりとりすることを伝える。 職員が見本を見せる。 じゃんけんで負けても、またじゃんけんができること、短冊がもらえることを伝えておく。 カラフルじゃんけんを始めさせる。 <p>遊びが終わったら、「最後までできたね」などと声をかけてほめる。</p>	<p><個別の支援></p> <p>あそびかた</p> <p>※4つのいろのたんざくをあつめます</p> <ol style="list-style-type: none"> せんせいがふえをならしたら、すたーとです おともだちとじゃんけんをして、たんざくをこうかんします 4つのいろをあつめたら、ごーです <p>じゃんけんで負けても、またじゃんけんができること、短冊がもらえることを伝えておく。</p> <p>友達を見つけて、声をかけるのがかっこいいことを伝える。</p> <p>あそびが終わったら、「負けても、またじゃんけんができたね」などと声をかけてほめる。</p>
		月日 OX 特記事項
		評価日：

からふるじゃんけんのあそびかた

- ① 同じ色の短冊を4枚持ちます。
- ② 先生の合図で友だちとじゃんけんをします。
- ③ 友だちとやりとりをして、自分の持っている色を交換します。
- ④ 4色揃ったら、先生に言って、OKサインをもらい、座って応援します。

からふるじゃんけんのあそびかた

【かったひと】 【まけたひと】

- ① 「〇〇ください」 「はいどうぞ」
- ② 「ありがとう」
- ③ 「△△どうぞ」 「ありがとう」

かち まけ

OKです！ そろいました

・じゃんけんに負けても、短冊がもらえるので、負けが受け入れやすく、最後まで遊べるようになりました。

・職員同士でしてみると、とても楽しく、「そろった時うれしい」「みんなに優しいあそび」と感動の声があがりました。

